

今後のスケジュール

- 6月22日 **第1回庁内調整会議**
- ・計画策定の背景、これまでの経緯
 - ・各担当課の自転車関連事業
 - ・「千曲市自転車活用推進計画検討委員会」委員の検討、選任
- 8月19日 **第1回千曲市自転車活用推進計画検討委員会**
- ・計画策定の背景、これまでの経緯
 - ・自転車利用環境の概況
 - ・自転車利用環境に関するアンケート調査の実施
- 10月16日 **第2回庁内調整会議**
- ・千曲市の自転車利用環境に関する現状と課題
 - ・自転車利用環境向上に向けた具体施策の検討
- 11月5日 **第2回千曲市自転車活用推進計画検討委員会**
- ・千曲市の自転車利用環境に関する現状と課題
 - ・自転車利用環境向上に向けた具体施策の検討
- 12月10日 **第3回庁内調整会議**
- ・第2回委員会での意見と対応
 - ・千曲市自転車活用推進計画の具体施策、目標指標
- 12月21日 **第3回千曲市自転車活用推進計画検討委員会**
- ・第2回委員会での意見と対応
 - ・現計画の進捗状況
 - ・千曲市自転車活用推進計画の概要、本編（素案）
 - ・パブリックコメントの実施について
- 1月中旬～2月下旬 **パブリックコメント**
- 3月中旬 **第4回千曲市自転車活用推進計画検討委員会**
- ・千曲市自転車活用推進計画の概要、本編（案）
- 3月末 **千曲市自転車活用推進計画の公表**

令和2年度 第3回千曲市自転車活用推進計画検討委員会 会議録概要

- 開催日時 令和2年12月21日(月) 午後1時30分～午後4時00分
- 開催場所 千曲市役所 3階 301B会議室
- 出席者 委員：12名(欠席者2名)
国土交通省長野国道事務所交通政策課：園部一男 課長
事務局：7名(建設部長、建設課長、総合政策課長、建設係長、政策推進係長、建設係2名)

1 開 会
建設課長

2 あいさつ
小川修一市長

3 会議事項

(1) 第2回委員会での主な意見と対応

○資料1について説明

[質疑応答]

委員(タイラー) ポータルサイトについて、多言語化の予定はあるか。

事務局(山本) 観光交流課と協議をして検討したい。

(2) 現計画の進捗状況

○資料2について説明

[質疑応答]

委員(タイラー) 市長交代により、市としての施策推進の姿勢に変化はあるか？

事務局(湯本) 新しい市長にも説明し、大きな変更は求められていないため、これまで同様に本計画を推進していくことになる。

(3) 自転車活用推進の具体施策

○資料3-1(都市環境)について

[質疑応答]

委員(林) P61サイクリング利用路線について、交通量が多いところも入っているように思うが、再確認や見直しは可能か？

事務局(山本) サイクリングコースマップの路線を採用している。たしかに交通量が多い区間も含まれている。サイクリングコースの看板設置の際に、「国道18号は交通量が多く歩道もないことから危ないのでは？」との地元意見があり、一部コースを変更した経

- 緯がある。来年度以降に継続開催する本委員会でのフォローアップを踏まえて対応を検討したい。
- 委員（日高） P 6 1 日常利用路線の国道 1 8 号から五加小学校間は道路幅員が狭く路側帯で歩行者と自転車が錯綜している状況だが、どのような対応を考えているのか？
- 委員（岩松） その箇所は県道であり、狭窄箇所の拡幅工事の計画があるので、その中で対応していきたいと考えている。
- 長野国道事務所（園部） P 6 1 ネットワーク路線の考え方について、路線選定の意図が分かるよう図面上に主要観光地や学校などのランドマークを示したほうが良い。
市境をまたぐ部分については、その先に目的地があるから路線として指定されていると思うので、腑に落ちるように整理してもらえると良い。
- 委員長（若林） ご指摘の点を踏まえ、今後の修正に反映してほしい。

○資料 3－1（健康・環境）について

[質疑応答]

- 委員（タイラー） 通勤だけではなく、買物のときにも自転車を推進するような取組も考えられ、幅広い効果が期待できると思う。
- 事務局（山本） 施策 1 3 の自転車による環境負荷低減、車から自転車への転換というところで表現しているつもりです。
- 委員長（若林） 「5－1. 都市環境」と「5－2. 健康・環境」の“環境”という文言が紛らわしいように感じるがどうか。例えば「都市基盤」としてはどうか。
- 事務局（山本） 内部でも検討しているがなかなか良い表現が出てこない。委員の皆様のご意見をうかがいたい。
- 委員（吉池） 「健康・環境」というのはSDGsを意識しており、これ以外の案は思い浮かばない。
- 委員長（若林） 5－1 のタイトルについては、事務局のほうでご検討いただき、代替案があれば変更してもらいたい。

○資料 3－1（観光振興）について

[質疑応答]

- 委員（吉池） 「日本遺産」については小学校でもカリキュラムに反映することを検討中である。観光というよりも郷土愛を醸成する部分で学校教育とつながっていくと思う。更級地域では、自転車で行きたい明確な場所がある。そこに行くために自転車に乗る、ということが具体的な自転車活用推進につながるのではないか。

- 委員（梶） 千曲市の協働事業でスタンプラリーを企画している。クルマでの来街者は白鳥園に停めて、鉄道での来街者は戸倉駅からレンタサイクルで巡るなどのことを検討している。
サイクルトレインは、基本的には輪行バッグに入れられないが、近江鉄道ではそのまま自転車を載せられる。駅構内はそのまま持ち込み、車両に乗るときは輪行バッグに入れるなど柔軟な対応をしないの鉄道などには検討してもらいたい。3年間の事業としてスタンプラリーを企画しているので、何かご意見等あればお願いしたい。
- 事務局（山本） P 6 1 に細かいランドマークを入れるのは難しいことから、ポータルサイトのページで P R する方向で検討したい。

○資料 3 - 1（交通安全）について

[質疑応答]

- 委員（小林） 中学校の立場からお話ししたい。中学生になるとほとんどが自転車を使っており、通学は少ないが部活や行事で 9 割以上の生徒が自転車を活用している。交通安全教室を年に数回、自転車に絞って実施している。幸い、今年は事故もない状況である。今後も力を合わせて実施していきたい。また、自転車保険の義務化について各家庭に P R しており、自転車を利予する場合は保険に入るよう周知している。ちゃんと加入したか確認するためのアンケートも実施しており、自己申告だが 1 0 0 % の生徒が加入していることを確認している。
グレーチングのところで自転車で滑って大怪我をしたという事例があり、グレーチングが長く続くなどの区間を確認し、改善を検討してほしい。
- 事務局（山本） グレーチングなどネットワーク路線の安全性については注視していきたい。
- 委員（前山） 保険加入については、一般市民の意識が低い状況である。全国的に高額賠償の事例がたくさんあり、もっと表に出して加入を促進すべきである。
- 委員長（若林） 事務局のほうでも検討してほしい。
- 委員（日高） 小学生、中学生、高校生、大人、高齢者と年代によってポイントが異なるため、年齢に応じたきめ細かな教育や指導が重要となる。上田署では、帽子を模したヘルメットをお試しで利用してもらおうような施策を実施しており、個人的には良い施策であると感じている。
- 委員長（若林） 保険とヘルメットは必須ということで推奨していきたい。ファ

ッション性に優れたものも紹介していけると良い。

○資料3-1（目標指標・推進体制）について

[質疑応答]

- 委員（上水） 自転車の駅について、屋代方面にも加入していくお店などがあるのかお聞きしたい。
- 委員長（若林） タイラー委員とあんずの里から12～13件勧誘に回ったところ、すぐにOKしてくれたところもある。また、自動車修理工場にはサイクルレスキューの相談にうかがったが、2件ご検討いただけることになっている。これらの状況を踏まえて計画に盛り込んでもらっていると思う。
- 委員（林） P83の目標指標について、目標値に対する進捗状況や達成状況はどのように知ることができるのか。
- 事務局（山本） 目標指標については、PDCAサイクルに基づき、年1回検討委員会を開催し、進捗状況を共有するとともに、目標値の見直しも含めて検討していきたい。委員の皆様は来年度いっぱい2カ年の任期となっているのでご協力をお願いしたい。
- 委員（タイラー） P83は良いと思うが、民間側にどのようなことを期待されていて、どのような役割があるのか。それぞれの役割に関するまとめがあったほうが分かりやすいと思う。
- 事務局（山本） 一覧表を最後に掲載する方向で調整したい。
- 長野国道事務所（園部） 他県では、スケアードストレート方式での交通安全教育を取り入れている自治体もある（長野市などでは取り入れている）。首長が推進している事例として愛媛県がある。知事が県庁職員の自転車通勤を半ば強制的に推奨している。市長交代直後であり、これにあわせて宣言していければよい。自転車保険加入率36%は低いように感じる。自動車保険の特約としてついている場合があることも考えると低いのではないか。
- 事務局（片岸） スケアードストレートについては、自転車の専門家の中で逆効果が指摘されている。事故の怖い場面を見せて事故回避の認識を強めてもらうことも大事だが、自転車に乗らなくなるという懸念もあり、そのような調査結果が出ているところもある。このため、スケアードストレートについては明記を避けているということでご理解いただきたい。自転車保険の加入率についてはアンケート結果の数字であり、実は「わからない」という回答が多くなった。これこそが問題であり、ご指摘の通り自動車保険の特約として加入していることを子どもが知らない、あるいはご自身がわかっていないとい

うことも多々あることから、そういうことも含めて周知していくことが重要となる。

(4) 今後のスケジュール

○資料4について説明

[質問・意見なし]

4 その他

[質問・意見なし]

5 閉 会

建設部長

以上